
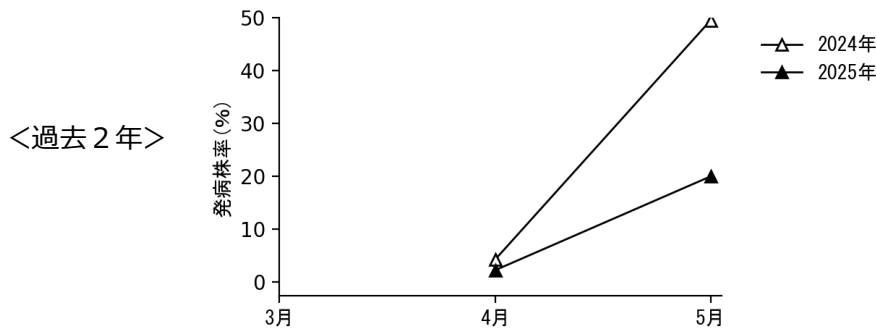
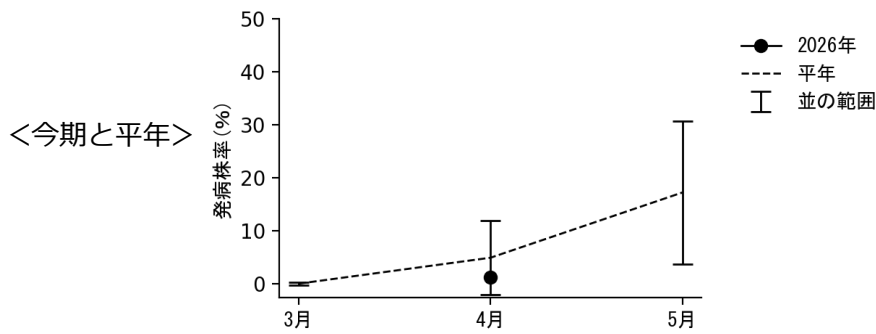


作物	水稻（1期）	地域	八重山群島
病害虫名	① 葉いもち病		
調査結果	4 月の発生量（平年比）	並	
予 報	4 月からの増減傾向	↗	
	5 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

調査結果


発病株率の推移



・発生ほ場率25.0%（平年：31.0%）

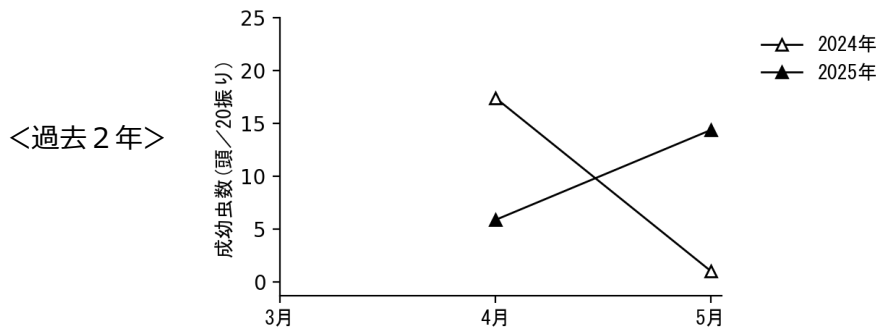
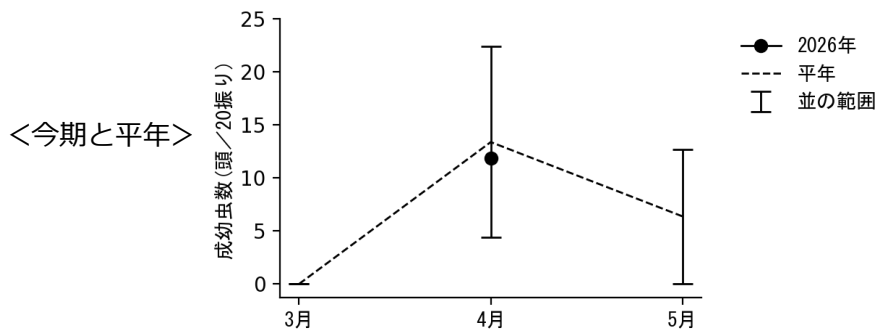
防除のポイント

- ・窒素肥料の過用により徒長した場合や葉色が濃い場合に発生が多いため、これらのほ場では次作は施肥量を減らすか、ケイ酸資材の施用を行う。
- ・穂いもち病への移行を防ぐため、発生を確認したら速やかに薬剤防除を行う。
- ・発生の多い地域では、共同防除を行う。

作物	水稻（1期）	地域	八重山群島
病害虫名	セジロウンカ		
調査結果	4月の発生量（平年比）	並	
予報	4月からの増減傾向	↘	
	5月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）	

調査結果


成幼虫数の推移



・発生ほ場率75.0%（平年：79.0%）

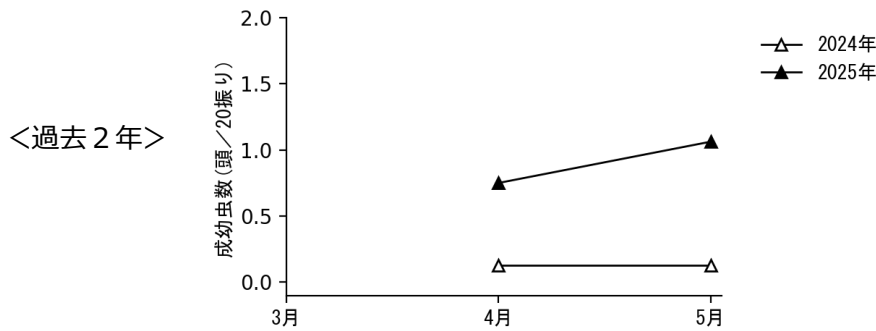
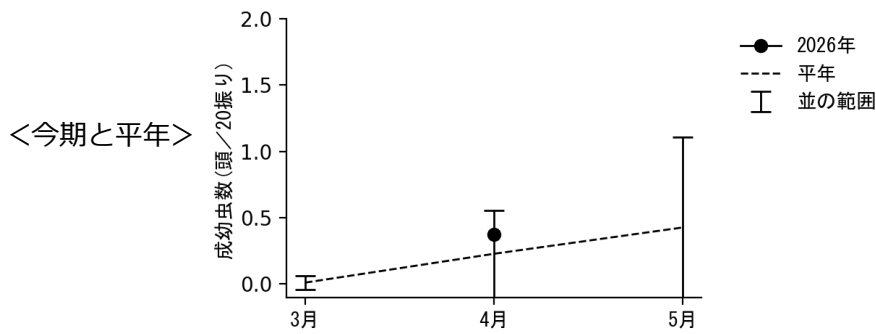
防除のポイント

・ウンカ類は株元に生息するため、薬剤防除を行う場合は株元に十分に薬剤がかかるよう散布する。

作物	水稻（1期）	地域	八重山群島
病害虫名	ツマグロヨコバイ		
調査結果	4 月の発生量（平年比）	並	
予報	4 月からの増減傾向	↗	
	5 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

調査結果


成幼虫数の推移



・発生ほ場率31.2%（平年：15.6%）

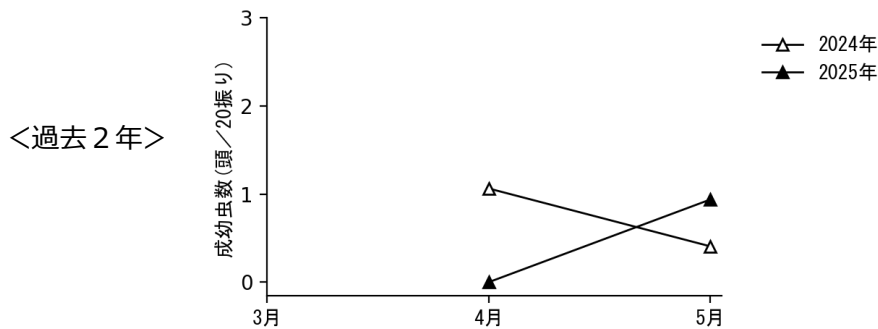
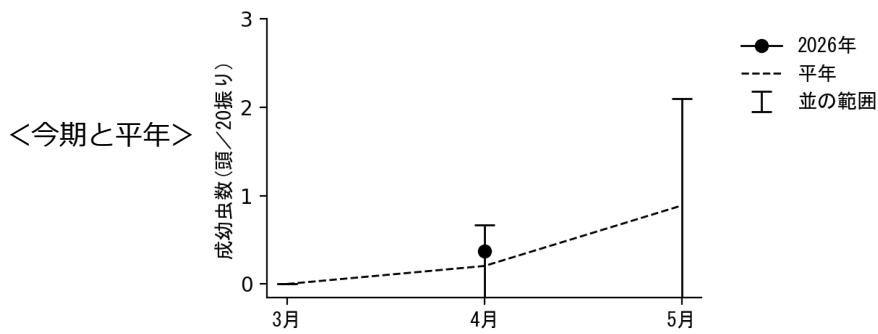
防除のポイント

- ・水田周辺の雑草防除を行い、発生源を少なくする。

作物	水稻（1期）	地域	八重山群島
病害虫名	② 斑点米カメムシ類		
調査結果	4月の発生量（平年比）	並	
予報	4月からの増減傾向	↗	
	5月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

調査結果

成幼虫数の推移



- ・発生種：クモヘリカメムシ類、アカスジホソナガカスミカメ
- ・発生ほ場率25.0%（平年：9.0%）

防除のポイント

- ・薬剤防除は穂揃期とその7～10日後の2回実施を基本とする。
- ・次作に向けた密度低減を図るため、収穫後に畦畔および水田周辺の除草を行う




ホソハリカメムシ



アカカメムシ

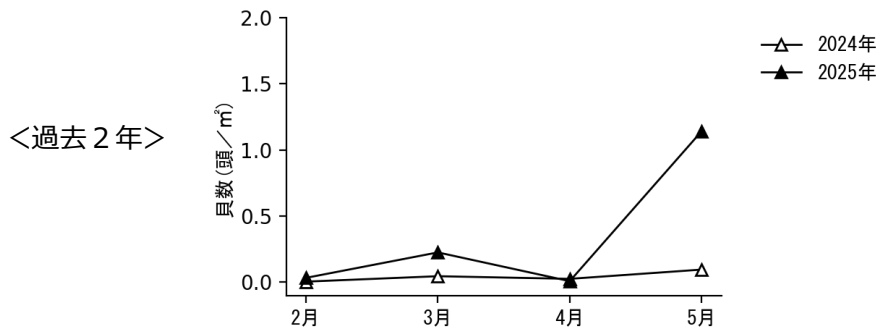
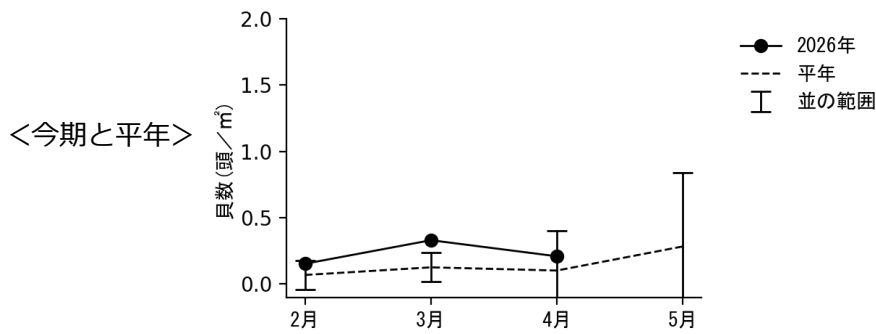


斑点米

作物	水稻（1期）	地域	八重山群島
病害虫名	③ スクミリンゴガイ		
調査結果	4月の発生量（平年比）	並	
予報	4月からの増減傾向	↗	
	5月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

調査結果

貝数の推移




・発生ほ場率93.8%（平年：27.5%）

防除のポイント

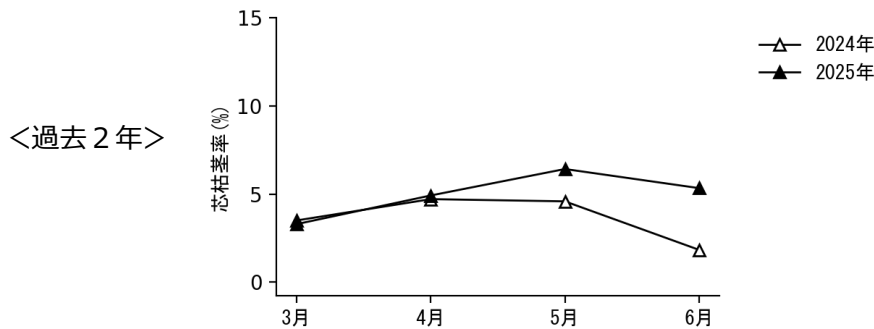
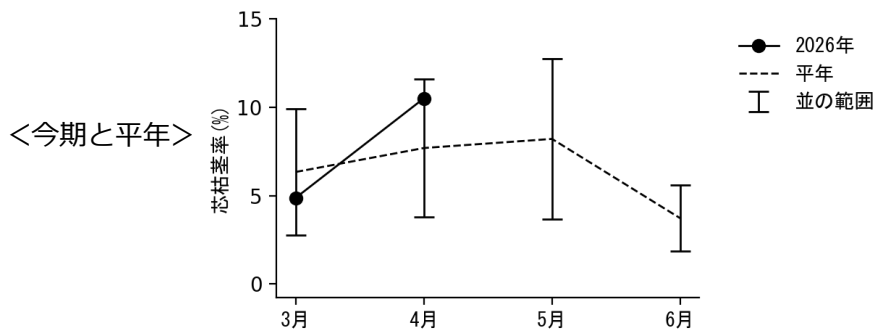
- ・畦畔および用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所を作らない。
- ・取水口に侵入防止網（目合6~10mm程度）を設置し、用排水路からの侵入を防ぐ。
- ・次作に向けた密度低減を図るため、貝や卵塊は見つけ次第捕殺する。



作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)		
調査結果	4 月の発生量 (平年比) 並		
予報	4 月からの増減傾向 → 5 月の発生量 (平年比) 並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果


芯枯茎率の推移(株出し)



- ・発生種：カンシャシクイハマキ (81%)、イネヨトウ (19%)
- ・発生ほ場率100% (平年：95.2%)

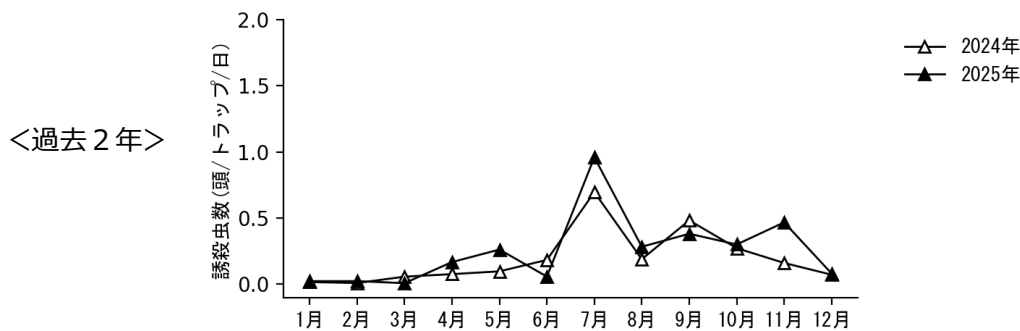
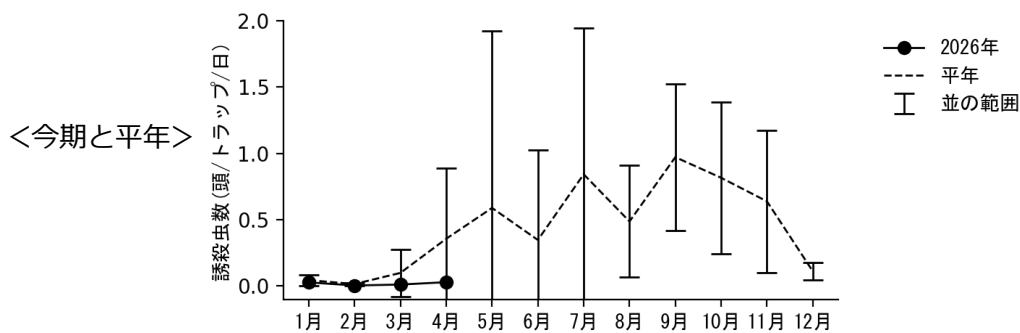
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・茎葉への乳剤等の散布は、葉鞘と茎のすき間に十分な薬液が入るように丁寧に行う。

作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	4 月からの増減傾向	↗	
		5 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

トラップ当たり誘殺虫数の推移




・発生施設率80.0% (平年 : 91.8%)

防除のポイント

- ・開花期以降は本種が増加しやすいので、早期発見・防除に努める。
- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・不要な新梢は、施設外に除去する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

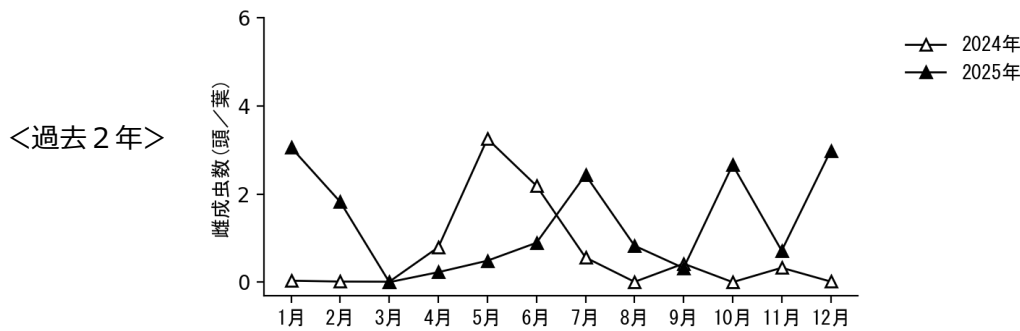
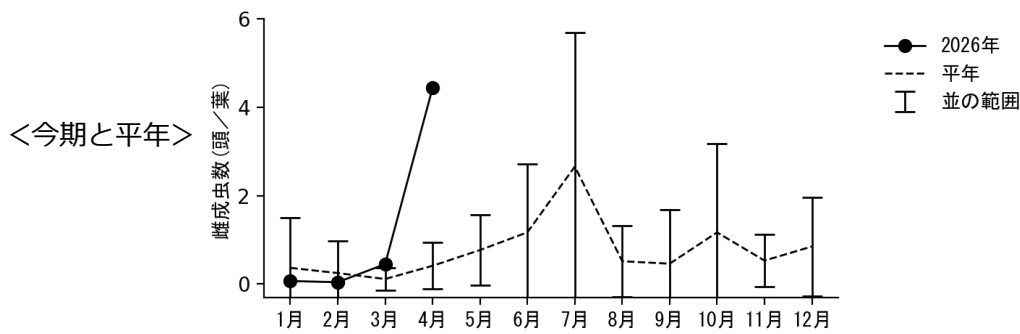


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	① ハダニ類		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	多	
予報	4 月からの増減傾向	↗	
	5 月の発生量 (平年比)	多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

雌成虫数の推移




- ・発生種：シュレイツメハダニ (55%)、マンゴーツメハダニ (45%)
- ・発生施設率60.0% (平年：30.0%) ※一部ほ場で多発

防除のポイント

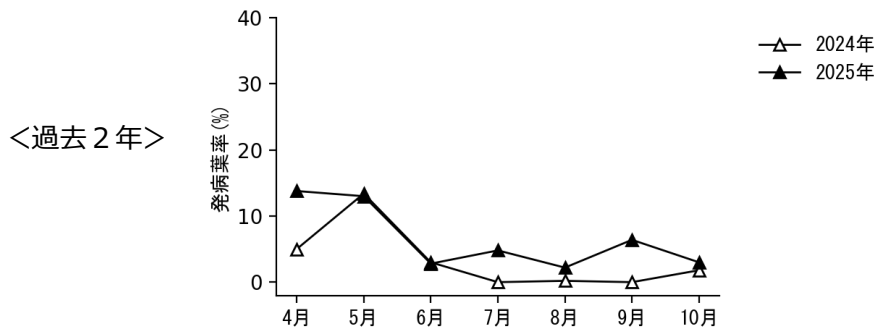
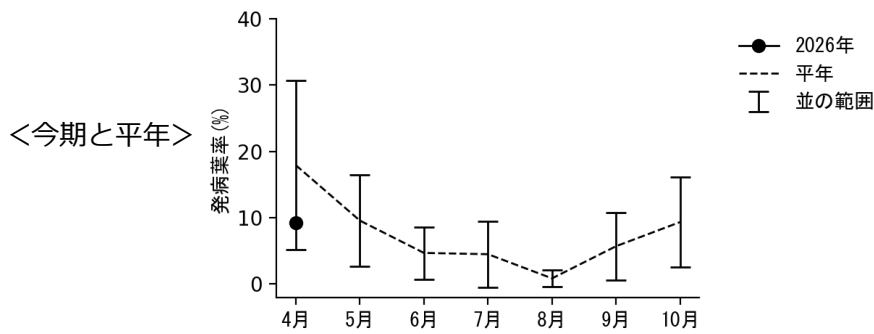
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	① うどんこ病		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	4 月からの増減傾向	↘	
		5 月の発生量 (平年比)	やや少
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果


発病葉率の推移



・発生ほ場率80.0% (平年 : 55.1%)

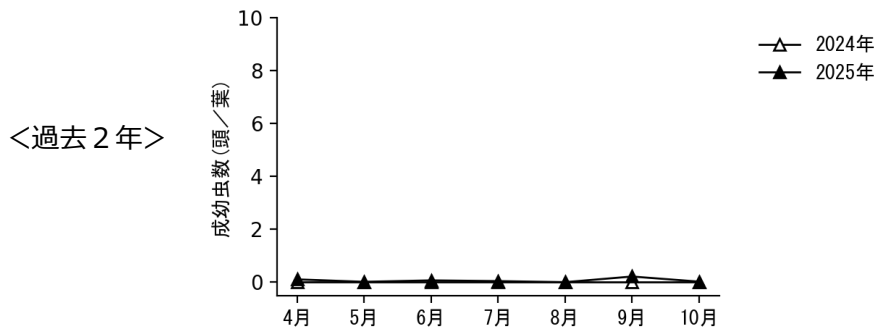
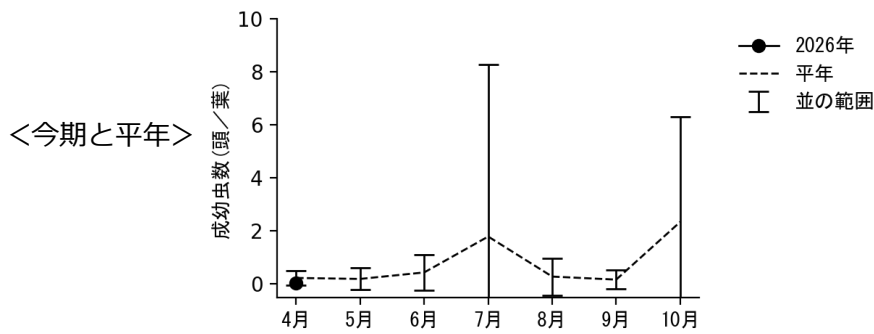
防除のポイント

- ・下位の罹病葉や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- ・窒素過多にならないようにする。
- ・草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。
- ・被害葉を除去し、適宜薬剤散布を行う。

作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	② アブラムシ類		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	→	
	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

成幼虫数の推移




・発生ほ場率20.0% (平年 : 53.1%)

防除のポイント

- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。



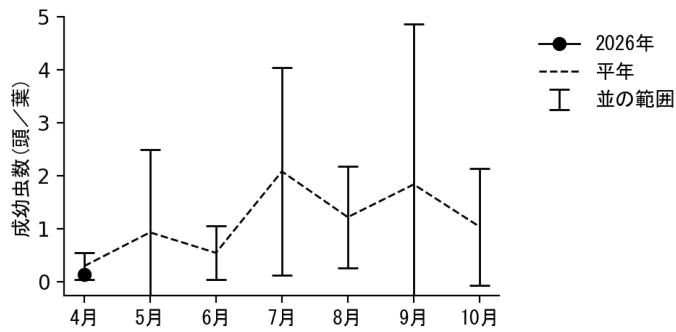
長点付近に密生したワタアブラムシ

作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	③ フタテンミドリヒメヨコバイ		 <p>成虫</p>
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	↗	
	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

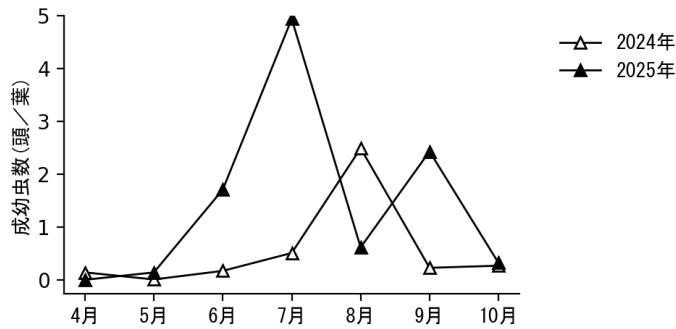
調査結果

成幼虫数の推移

<今期と平年>



<過去2年>

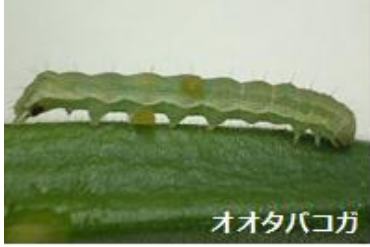


・発生ほ場率80.0% (平年 : 71.4%)

防除のポイント

・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。

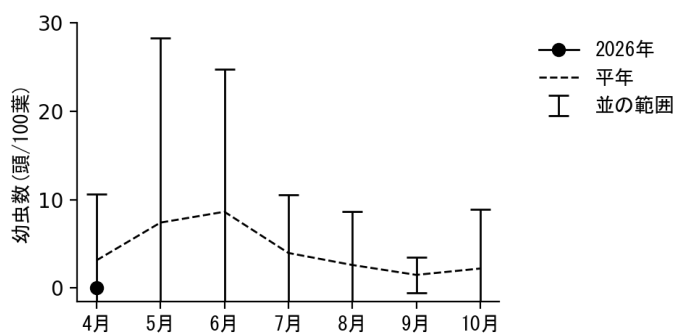


作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	④ チョウ目幼虫		 <p>オオタバコガ</p>
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	↗	
	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

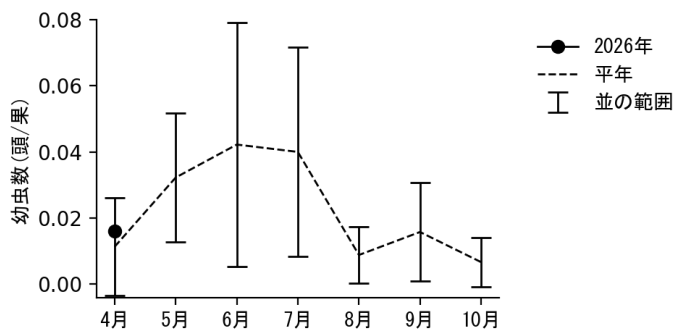
調査結果

幼虫数の推移

<葉>



<果実>




- ・発生種：オオタバコガ
- ・発生ほ場率：40.0% (平年：36.7%)

防除のポイント

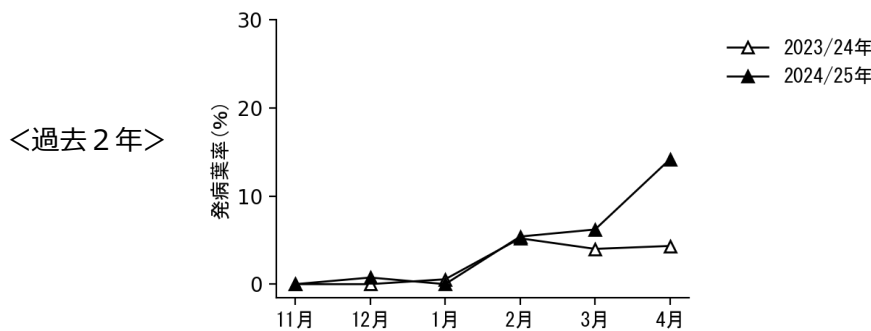
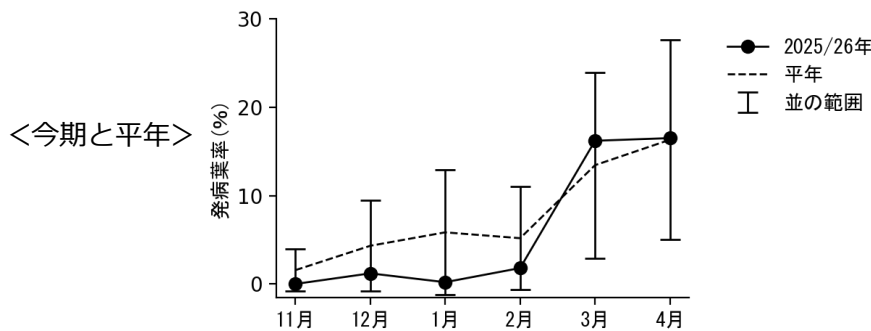
- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・食害痕を発見したら、速やかに薬剤を散布する。また同系統薬剤の連用を避ける。
- ・オオタバコガは齢期が進むほど薬剤感受性が低下し、かつ中齢幼虫以降は蕾や果実内に潜行するため、できるだけ食入前の若齢幼虫のうちに薬剤防除を行う。



作物	ニガウリ(施設)	地域	八重山群島
病害虫名	うどんこ病		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	4 月からの増減傾向	—	
	5 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

発病葉率の推移



・発生施設率75.0% (平年 : 63.8%)

防除のポイント

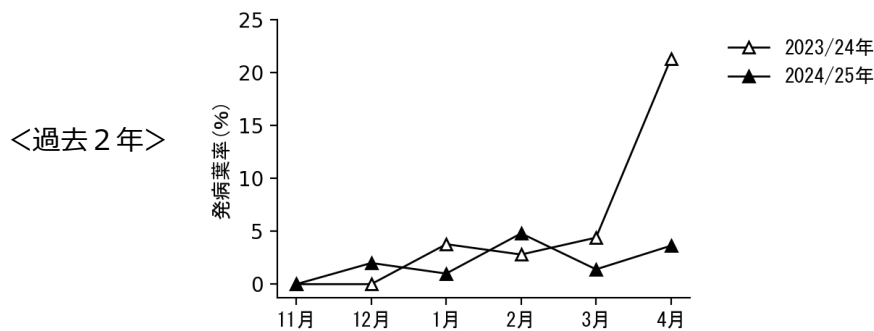
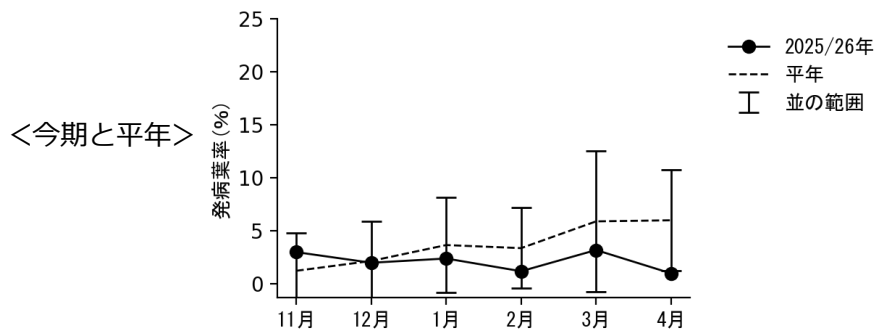
- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・老葉や発病葉は伝染源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

作物	ニガウリ(施設)	地域	八重山群島
病害虫名	斑点病		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	やや少	
予報	4 月からの増減傾向	—	
	5 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			



調査結果


発病葉率の推移



・発生施設率50.0% (平年 : 62.2%)

防除のポイント

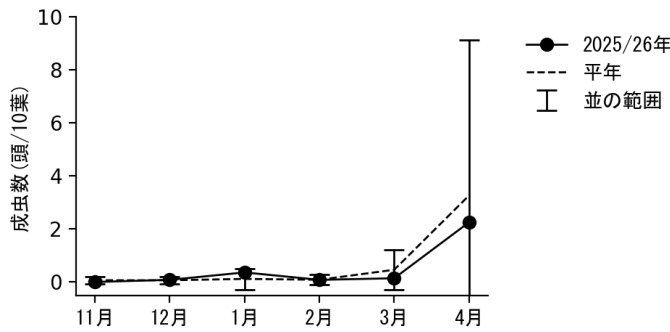
- ・葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
- ・多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・老葉や発病葉は伝染源になるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・雨漏りする場所で発生が多くなるため、ビニールの破れ等は補修する。

作物	ニガウリ(施設)	地域	八重山群島
病害虫名	ミナミキイロアザミウマ		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	—	
	5 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

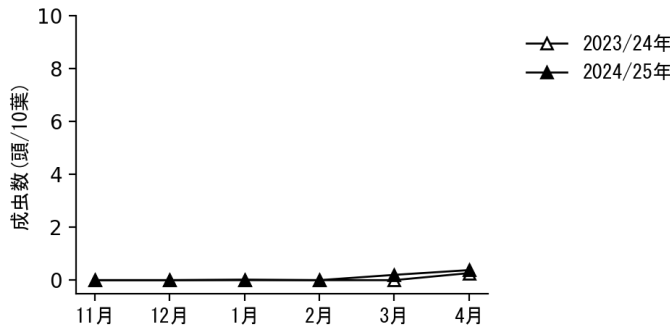
調査結果

成虫数の推移

<今期と平年>




<過去2年>



・発生施設率100% (平年 : 61.7%)

防除のポイント

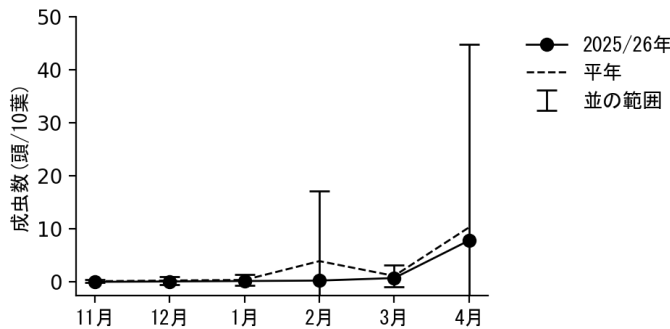
- ・本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、スイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合い0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	ニガウリ(施設)	地域	八重山群島
病害虫名	タバココナジラミ		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	 <p>成虫</p>
予報	4 月からの増減傾向	—	
	5 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

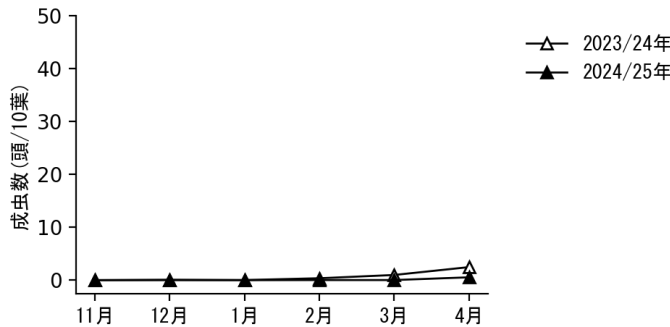
調査結果

成虫数の推移

<今期と平年>



<過去2年>




・発生施設率100% (平年 : 48.9%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

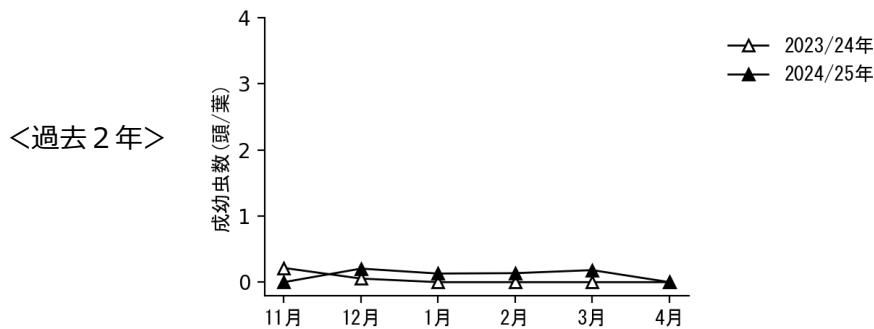
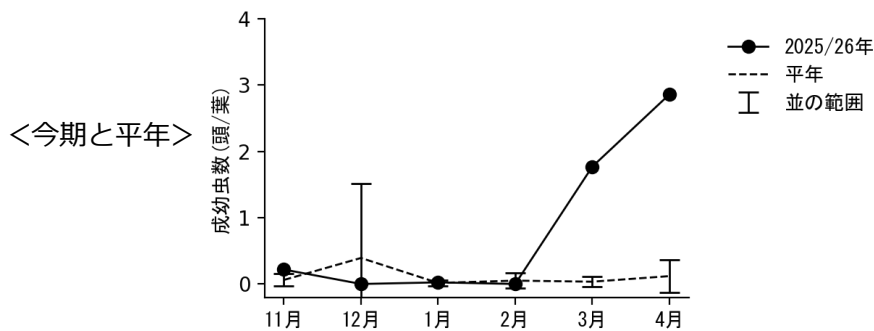


幼虫

作物	ニガウリ(施設)	地域	八重山群島
病害虫名	アブラムシ類		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	多	
予報	4 月からの増減傾向	—	
	5 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

成幼虫数の推移



- ・発生種：ワタアブラムシ
- ・発生施設率25.0% (平年：17.0%) ※一部ほ場で多発

防除のポイント

- ・アブラムシ類はズッキーニ黄斑モザイクウイルスやパパイヤ輪点ウイルス等を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。
- ・早期発見に努め、薬剤が葉裏にかかるよう丁寧に散布する。